

# 令和 8 年度 兵庫県 英語教育改善プラン

## 目標

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の促進を目指し、小中高連携を推進し、学習指導要領に基づく指導方法の工夫、教員の授業力向上に取り組む。

☒ 言語活動 
 ☒ 指導と評価の一体化 
 ☒ 教師の英語力・指導力 
 ☒ 校種間連携 
 ☐ ALTの参画 
 ☒ ICTの活用 
 ☐ AIの活用 
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

## 1. 目標に対する現状

### 改善が進んだ点

- ①授業の好事例の共通理解が進んだ。
- ②言語活動の充実や「CAN-DOリスト」の活用方法を示す必要性についての周知が進んだ。

### 未だ改善が必要な点

- ①CEFR B2以上を取得している小学校教員の割合が、低い状況である。  
(R4:5.0%、R5:5.8%)

## 2. 要因分析

- ①専科教員の指導力向上研修で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて実践研修を実施し、授業改善について協議することを通して、児童の学力向上及び指導体制の充実を図ったため。
- ②英語教育実施状況調査の結果分析により、英語力向上につながる言語活動を充実させるために、教員が実践している授業を振り返ったり、言語活動例を示したりすること、また、指導と評価の一体化を図る授業を実現するために作成した「CAN-DOリスト」の活用方法を示す必要があることを県内に周知したため。
- ③外部検定制度の活用等について周知を行っているが、小学校教員の英語力向上の必要性が十分に理解されておらず、活用されていない現状があると考えられるため。

## 3. 目標を達成するための施策・事業

- ①①
  - (1) 教員の英語力向上を図るために、英語資格・検定試験の特別受験制度等について引き続き周知する。
  - (2) 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善研究事業  
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「個別最適化学び」と「協働的な学び」の一体的な充実や、教科等横断的な学びや総合的な学習の充実等、児童生徒が学習したことを活用して、主体的に学びを深めるための指導方法の工夫について、学校単位による実践的な授業研究を実施するとともに、市町単位による研究成果の周知を図る。
  - (3) 「小・中 9 年間をつなぐ教科指導研修」  
小・中学校 9 年間を見通した指導計画や指導方法等の工夫について、小・中学校の教員が合同で研修を行うことで、系統性を重視した指導の充実を図る。
  - (4) ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた調査研究事業  
デジタル教科書の児童生徒への学習効果、有効な指導方法、授業でのICTの活用状況等の把握及び好事例の収集・周知を図ることで、英語教育におけるICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を全県的に促進し、教育の質の向上を図る。
  - (5) 指導資料の作成・周知や研修会の実施  
指導資料「英語教育の充実に向けて」や「小学校外国語教育指導用映像資料」の周知や研修会の実施など、指導力向上に向けた施策等を実施する。  
(参考URL：義務教育課HP「英語教育に関すること」  
<https://www2.hyogo-c.ed.jp/hpe/gimu/english/>)

# 令和 8 年度 兵庫県 英語教育改善プラン

## 目標

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の促進を目指し、小中高連携を推進し、学習指導要領に基づく指導方法の工夫、教員の授業力向上に取り組む。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合（R7実績：42.4%⇒R8目標：58.0%）

☐ 言語活動 
 ☒ 指導と評価の一体化 
 ☒ 教師の英語力・指導力 
 ☒ 校種間連携 
 ☐ ALTの参画 
 ☐ ICTの活用 
 ☐ AIの活用 
 ☐ その他  
（パフォーマンステスト含む）
（AIを除く）

## 1. 目標に対する現状

### 改善が進んだ点

①CEFR B2相当以上を取得している教員の割合が増加している。

（R6:44.2%⇒R7:54.3%）

②生徒がデジタル教科書を積極的に活用した授業の割合が増加している。

（R6:57.7%⇒R7:82.6%）

### 未だ改善が必要な点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合は増加しているが、目標値に至っていない。

（R6:38.7⇒R7:42.4%）  
（R7目標値：55.0%）

## 2. 要因分析

①英語資格・検定試験の特別受験制度の活用や教員採用試験における加点措置等について周知を行った結果、中学校教員の英語力向上の必要性が理解されてきたと考えられる。

②英語のデジタル教科書をはじめとしたICTの活用による学習効果を教員、生徒が実感してきたこと、また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が進んでいると考えられる。

①教員の英語力に改善傾向が見られていることや、指導と評価の一体化等、指導方法の改善が進んでいるものの、依然として教科書のリーディング中心の授業を行っている学校があることが考えられる。

## 3. 目標を達成するための施策・事業

①英語資格・検定試験の特別受験制度の周知及び県作成教材の活用  
教員・生徒の英語力向上を図るために、外部検定割引制度の活用等について引き続き周知するとともに、県作成教材「Englishつまずき予防ワークシート」及び「はば単2,500」を活用して、生徒のつまずきを予防し、生徒の英語力向上を図る。

（参考URL：義務教育課HP「英語教育に関すること」）

<https://www2.hyogo-c.ed.jp/hpe/gimu/english/>

### ②①

(1)「小・中 9 年間をつなぐ教科指導研修」

小・中学校 9 年間を見通した指導計画や指導方法等の工夫について、小・中学校の教員が合同で研修を行うことで、系統性を重視した指導の充実を図るとともに、市町単位による研修成果の周知を図る。

(2) 県作成指導事例集等の周知、活用

全国学力・学習状況調査の結果（外国語）を分析し、指導方法の工夫・改善策をまとめた「学びのデジタルガイド」、児童生徒向け「学びのデジタルガイドプラス」を作成・周知することで、英語教育の充実を図る。また、県が生徒の英語力向上に向けた取組推進のポイントをまとめた「言語活動が英語力UP！につながる」「作ってみよう！使ってみよう！『CAN-DO リスト』」を再度周知することで、教員の指導力向上と授業改善を図る。

(3) 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善研究事業

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実や、教科等横断的な学びや総合的な学習の充実等、児童生徒が学習したことを活用して、主体的に学びを深めるための指導方法の工夫について、学校単位による実践的な授業研究を実施するとともに、市町単位による研究成果の周知を図る。

# 令和 8 年度 兵庫県 英語教育改善プラン

HYOGOグローバルリーダー育成プロジェクトや指導力向上研修等において授業改善に向けた言語活動及び学習評価の充実を推進し、好事例を研修会等で広く共有することで、県全体で生徒の英語力の向上に取り組む。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合  
(R7 : A2以上 55.3%、B1以上 25.1% ⇒ R8 : A2以上 58.0%、B1以上 29.0%)

## 目標

- ☒ 言語活動
- ☒ 指導と評価の一体化
- ☐ 教師の英語力・指導力
- ☐ 校種間連携
- ☒ ALTの参画
- ☐ ICTの活用
- ☒ AIの活用
- ☐ その他
- (パフォーマンステスト含む)
- (AIを除く)

### 1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合が大幅に増加。  
(R6:21.7%⇒R7:25.0%)
- ②英語の授業においてICT機器を活用している割合。  
(兵庫 : 56.8%、全国47.8%)
- ①英語担当教員の授業における英語使用の割合が減少。  
(R6:44.6%⇒R7:35.7%)
- ②CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合が減少。  
(R6:56.2%⇒R7:55.3%)

### 2. 要因分析

- ①探究的な学びにおける英語活用の充実や海外留学者数の増加により、生徒がより高度な英語力を身につけることにつながったと考えられる。
- ②研究指定校に英語学習支援アプリを導入し、授業改善を図るとともに、その成果が研究授業等を通じて広く県内で共有されていることが要因だと考えられる。
- ①授業におけるICT活用や、ALT参画の充実により、教師が生徒と英語でやり取りする時間が減少していると考えられる。
- ②学校で行う評価はリーディングやリスニングが中心であり、CEFRでのスピーキングやライティングの到達度を正確に測定できていない可能性がある。

### 3. 目標を達成するための施策・事業

- ①主体性を持ち、グローバルな視野で活躍・行動できる人材の育成に向け、「HYOGOグローバルリーダー育成プロジェクト（海外サポート）補助事業」の活用を促して、生徒の海外での活動意欲を高めるとともに、授業等を通じて英語力の基礎を育成し、CEFR B1レベル相当以上の英語力と国際感覚の涵養を図る。  
(参考URL : HYOGOグローバルリーダー育成プロジェクト（海外サポート）補助事業 <https://www2.hyogo-c.ed.jp/hpe/koko/career/bosyuannai/>)
- ①②言語活動を通じた生徒の英語力の向上を目指し、授業においてはAIを含むICT活用とALTによる指導を有機的に連携させ、発話につなげる授業設計を重視するとともに、研修等を通じて「教員の生徒への働きかけの重要性」に対する意識の向上を図る。
- ②パフォーマンステストの充実のため、授業等においてスピーキングやライティングなどの技能を評価する場面を計画的に設定するとともに、CAN-DOリストやルーブリックを活用して到達度を可視化し、生徒の英語運用能力を適切に把握できるようにするとともに、評価に関する研修等を行い、教員一人一人が評価基準や観点を的確に理解し、実践的な評価方法を共有・改善しながら評価スキルの向上を図る。

兵庫県教育委員会

| 校種   | 指標内容                                 |            | 2023  |      | 2024  |      | 2025  |      | 2026  |     | 2027  |     |
|------|--------------------------------------|------------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|-----|-------|-----|
|      |                                      |            | 目標値   | 達成値  | 目標値   | 達成値  | 目標値   | 達成値  | 目標値   | 達成値 | 目標値   | 達成値 |
| 高等学校 | ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）      |            | 52.0  | 57.2 | 54.0  | 56.2 | 56.0  | 55.3 | 58.0  |     | 60.0  |     |
|      | ①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）      |            | 26.0  | 21.0 | 27.0  | 21.7 | 28.0  | 25.1 | 29.0  |     | 30.0  |     |
|      | ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）           |            | 100.0 | 65.7 | 100.0 | 63.2 | 100.0 |      | 100.0 |     | 100.0 |     |
|      | ③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％） |            | 38.0  | 38.8 | 41.0  | 35.9 | 44.0  |      | 47.0  |     | 50.0  |     |
|      | ④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況         | 設定（％）      | 100.0 | 95.8 | 100.0 |      | 100.0 |      | 100.0 |     | 100.0 |     |
|      |                                      | 公表（％）      | 100.0 | 66.1 | 100.0 |      | 100.0 |      | 100.0 |     | 100.0 |     |
|      |                                      | 達成状況の把握（％） | 65.0  | 55.2 | 65.0  |      | 66.0  |      | 67.0  |     | 68.0  |     |
|      | ⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）  |            | 90.0  | 88.4 | 90.0  | 93.2 | 91.0  | 91.5 | 92.0  |     | 93.0  |     |
|      | ⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）  |            | 100.0 | 47.3 | 100.0 | 44.6 | 100.0 | 35.7 | 100.0 |     | 100.0 |     |

| 校種  | 指標内容                                 |            | 2023 |      | 2024 |      | 2025 |      | 2026 |     | 2027 |     |
|-----|--------------------------------------|------------|------|------|------|------|------|------|------|-----|------|-----|
|     |                                      |            | 目標値  | 達成値  | 目標値  | 達成値  | 目標値  | 達成値  | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 |
| 中学校 | ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）      |            | 50.0 | 42.3 | 52.0 | 38.7 | 55.0 | 42.4 | 58.0 |     | 60.0 |     |
|     | ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）           |            | 90.0 | 61.4 | 90.0 |      | 92.0 |      | 92.0 |     | 95.0 |     |
|     | ③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％） |            | 74.0 | 71.8 | 76.0 |      | 77.0 |      | 78.0 |     | 80.0 |     |
|     | ④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況         | 設定（％）      | 90.0 | 73.2 | 90.0 |      | 90.0 |      | 92.0 |     | 95.0 |     |
|     |                                      | 公表（％）      | 50.0 | 37.4 | 50.0 |      | 50.0 |      | 52.0 |     | 55.0 |     |
|     |                                      | 達成状況の把握（％） | 70.0 | 55.9 | 70.0 |      | 70.0 |      | 72.0 |     | 75.0 |     |
|     | ⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）  |            | 45.0 | 43.5 | 50.0 | 44.2 | 52.0 | 54.3 | 54.0 |     | 55.0 |     |
|     | ⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）  |            | 90.0 | 55.0 | 90.0 |      | 90.0 |      | 90.0 |     | 90.0 |     |

| 校種  | 指標内容                        |            | 2023 |      | 2024 |     | 2025 |     | 2026 |     | 2027 |     |
|-----|-----------------------------|------------|------|------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
|     |                             |            | 目標値  | 達成値  | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 | 目標値  | 達成値 |
| 小学校 | 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況 | 設定（％）      | 70.0 | 62.8 | 70.0 |     | 72.0 |     | 74.0 |     | 75.0 |     |
|     |                             | 公表（％）      | 35.0 | 29.5 | 35.0 |     | 37.0 |     | 39.0 |     | 40.0 |     |
|     |                             | 達成状況の把握（％） | 60.0 | 52.6 | 60.0 |     | 62.0 |     | 64.0 |     | 65.0 |     |